2019年08月12日 新潟日報 朝刊 広告５面 016頁

(C)新潟日報社　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

未来のチカラ in 上越
つたえる　つながる　つかえる
新潟日報

挑め、上越。

Joetsu Challenger's INTERVIEW
上越チャレンジャーズインタビュー

上越に眠る鉄道で見つけた宝。広げる。

#002

鉄道で、上越の未来に光を。

えちごトキめき鉄道

横田大輝（よこた ひろき）

(26)

神奈川県出身の横田大輝さん(26)はまち歩きが趣味で、とにかく古い建物が大好き。日本中どこへでも行き、歩いて見てまわる。「古いまち並みに光をあてて地域振興するのが夢」と横田さん。都会から上越に来て就職。休日には全国のまち歩きをしながら「上越だったら…」と思いを巡らせる。上越に面白くて頼もしい若者がまた一人やってきた！

私は「えちごトキめき鉄道」(以下、トキ鉄)に入社して5年目になります。最初の2年間は車掌と駅員を、3年目からは観光列車「雪月花」の専属車掌と二本木駅を活用した地域づくりをしています。

大学時代の専攻が「地域振興」で、静岡県浜松市の中心市街地の活性化や、山形県の置賜郡では農村振興の課題に取り組みました。自分の学んだことが地域や国の課題の解決につながるかもしれない！ということに魅力を感じて、仕事でも「地域振興」に関わりたいと思っていました。

公務員も考えましたが、広い範囲で動き回って「地域振興」をしたいと思ったときに、鉄道は地域をまたいで走っています。歴史もあります。「雪月花」のような魅力ある電車を走らせて、地域外から人を呼びこむことができます。駅舎などの資産もあり、磨けば光るものをたくさん持っています。そういうものに光をあててみたい！と思い鉄道会社を選びました。

学生の頃からまち並みや建物を見てまわるのが好きで、日本中いろいろなところに行っています。古い建物が見たいので「重要伝統的建造物群保護地区」を目指します。そこには古い建物が何軒も集まっていて、その建物を使って何かやっている人たちがいるので、それを見て歩きます。

車はだめ。前を見てないと危ないから、見逃しちゃうし…。いつも1人。私の行程はハードすぎるので誰もついて来られません。もし、ついて来たら私のことが嫌いになります(笑)。カメラを持って歩くのですが、写真の撮れ高が悪いと引き返しちゃいますからね。四国に行ったときは3万歩、歩きました。

いまでも真面目に旅行するときには電車で。本当に電車の窓から、いろんな発見があります。例えば、ある地域に入ったら瓦の色が変わったな、とか。なんでかな？とメモっておいて調べてみると新しい発見があります。鳥取県には二本木駅のような古い木造の駅があって、中には直売所がありました。その町にはスーパーがないから、野菜や肉や魚も売っていて、にぎわっているのです。まさに鉄道を使った地域振興！面白いなあと思いました。

駅はコミュニティーの中心になれるポテンシャルがあるのです。「トキ鉄」は、地域なくして鉄道会社は成り立たないという観点から地域づくりに積極的に関わっています。会社の方針に共感し、新しいことができそうだと感じたから入社しました。

神奈川県から上越に来てまず感じたことは、海と山が近くて、2000m級の山並みと頸城野が広がる自然環境の素晴らしさです。とても住みやすくていちばん満足しているのは、職住近接の暮らしです。首都圏で就職していたら通勤で満員電車に1時間以上乗るのは当たり前。でもいまは、10分もかからない。その時間を余暇や読書や勉強に充てることができて、とても有意義な毎日です。

そして驚いたのは野菜も魚もお米も、そのうまさです。普通に毎日美味しいものが食べられる。先日も仲良くなった漁師の方から朝とってきたサザエを食べさせてもらいました。めちゃくちゃうまかったですね(笑)。あんなにおいしいもん、初めて食べました！

私が生まれ育ったのは神奈川県のいわゆるニュータウンと呼ばれるまちで、歴史といっても30年くらいです。それに比べて高田の老舗の方たちは、400年の歴史の上に生きています。「雪月花」の専属車掌として、高田の老舗店へ首都圏のお客さまをお連れすると、店主の方々の会話の端々からまちに対する愛着や誇りが感じられ、まちの魅力や雪国の暮らしを伝えたいという気持ちが伝わってきます。私の生まれたまちでは、まずありえない。とてもうらやましいです。

いま、上越だけでなく新潟の若者が首都圏に行ってしまい、人口流出が問題になっていますが、関東圏で育った人間にとっては、ずっとこっちの方が暮らしやすい！それぞれ価値観は違うので一概には言えませんけれどね。

2年前から続けている二本木駅での取り組みは、地域の方の活動がきっかけで始まりました。駅でのイベント開催や雪月花のお出迎えなど、大変お世話になっていたので、「トキ鉄」としても、駅の魅力をもっと高めるために何かできることはないかと考えました。

調べていくと二本木駅には明治末期から昭和初期に建てられた鉄道施設が7棟も残っていました。これは全国的にも非常に珍しい。この魅力を発信する1つの手段として考えたのが、国の登録有形文化財化でした。

もう1つは駅のリフォームです。二本木駅は、1910(明治43)年に竣工し、その後の増築や改修で、かつての面影は全くなくなっていました。今回のリフォームで新建材の外壁を撤去すると、竣工当時のものと思われる漆喰壁や羽目板などが出てきました。可能な限り古い1970年ごろの姿をほぼ取り戻しています。

何より嬉しかったのは地元の方が「昔の駅舎に戻った」と喜んでくださったことです。

以前の駅舎は古いだけでトタンでふさいであったような状態でしたから、「写真を撮って」と言われたことがなかったけれど、いまはお客さまからバンバン「駅舎をバックに写真を撮って」と言われるようになりました。

今年の4月、駅舎の中に地元のNPOが運営する喫茶室もできました。最初は月に2回の開店だったのが、今は365日営業しています。少しずつ常連さんが増えて、毎朝コーヒーを飲みに来られる地元のおじいちゃんやおばあちゃんもいます。過疎化が進む地域の中で住民同士がつながる場として、全国から観光客や鉄道ファンが訪れる駅として、活用していただきたいです。「トキ鉄」の社員として二本木駅の仕事に関われたことをありがたく思っています。そして、協力くださった地域の方や社内の他部署の方に心から感謝しています。

二本木駅の仕事と併せて行っている「雪月花」の専属車掌では、3時間の乗務で首都圏などからのお客さまに上越地方の魅力を最大限に知っていただくようにガイドしています。

2016年春に運行を開始した「雪月花」では、美しい山と海を車窓から再発見できる仕掛けと過ごし方を提案。インテリアの細部まで新潟にこだわった車両は「ALL Made in 新潟」で地元の技術を結集し、国内最大級の展望を確保したパノラマ新造列車です。午前便はフレンチ、午後便は和食のフルコース。地元の食材の良さを知る地元出身の一流料理人がオリジナルメニューを考案しています。

「雪月花」は、日本中の日帰り観光列車のなかでも最高級の列車であると同時に、様々な人たちの思いがこもった列車です。企画を主導した社長をはじめとする会社内外の方々はもちろん、地域住民の期待を背負っている列車です。まさに上越の地域振興の象徴です。地元の方が列車の通る時間に手を振って下さるのですが、最近、手を振る方々が増えたと感じます。営業企画の担当として、みなさまの期待を裏切るわけにはいきません。お客さまに来ていただけるよう、上越の魅力を最大限生かした企画を検討しています。

「雪月花」は首都圏のお客さまと海外の方がほとんどですが、最近では地元の方、特に若い方に乗っていただく企画も好評でした。8月は妙高高原に行くツアー、9月は北越急行に乗り入れて、魚沼の実りの季節の田んぼを背景に走り、人気宿泊施設の里山十帖が手掛けたお弁当を食べるツアーも予定しています。

「雪月花」はディーゼル車両ですので、線路があるところならどこへでも走っていけます。トキ鉄内のみならず、県内なら新潟駅や越後湯沢駅、県外なら長野県の上田や南小谷、富山県の泊まで運行したこともあります。個人的には、新潟県の全ての路線で運行できたらいいなと思っています。上越だけでなく、新潟県全体の魅力を発信できたらいいですね。

最近、私が個人的に注目しているのは有間川駅です。柏崎の青海川駅よりは海から離れていますが、有間川は高台にあるので景色がいい！それに駅舎が古くて風情もある。青海川に負けないくらい素敵な駅なので「日本一、海がきれいに見える駅」として発信していきたいなあ(笑)。

二本木駅の改修時によく言われたことですが、費用をすぐに回収するのは難しい。しかし、沿線としての魅力をアップしていくためには欠かせない仕事です。二本木駅を模範例として低予算で持っているものを磨き上げていく。その結果として「東京近郊から1泊2日でどこに行こうかな」となったときに、「雪月花に乗って上越へ観光しよう」と選ばれる地域づくりができていく。二本木駅に有間川駅が加わると1+1ではなくて、掛け算で路線の魅力が増していきます。スポットライトが当たっていなかったところに光をあてて、その価値が全国的に知られるようになっていくのは非常に楽しい！

大潟地区の旧道沿いにある昔ながらの浜辺の家、下見張りっていうのですけどね、そうした建物もあって、なかなか良いのです。上越は、歴史、自然、文化、食と可能性に恵まれた土地ですが、いまは、その可能性が最大限生かしきれているとは言えません。やっと様々な活動が地域内で芽吹き、実を結びつつあります。十数年前から始まったという高田の町の雁木通りの活用もいよいよ根づき、魅力が知れ渡るようになってきました。私たちは「雪月花」を通じて上越の魅力を全国に発信していきます。おかげさまで「雪月花」がテレビやマスコミで注目されているので発信力は十分あります。「雪月花」のツアーに盛り込めるものは、どんどん盛り込んで共存共栄、お互いがプラスになれたらいいですね。休日は私も、上越の魅力を探しに自分の足でいろんなところを歩き回っています。この間は山奥に行ったら熊の足跡があって怖くなって引き返してきましたけど(笑)。

地元の人たちは、自分のまちのことは知っていても、沿線まで詳しいことは少ないようです。地域のことを考えるのであれば、まず自分たちの地域を知っていることは絶対必要です。うちの会社は3市をまたいで走っていますから、沿線地域の方々には、ぜひ列車で上越の魅力を探しに出かけていただければと思います。夏休み中は「トキ鉄3Daysパス」など、お得なきっぷもありますし。鉄道会社として、お互いの魅力を知ることにひと役買うことができたらと思いますね。

田中産業株式会社は、上越のさまざまな挑戦を応援します。